

根深ネギ (ユリ科)

耕土の深いところで軟白部を長く作るのがポイント。耕土が浅い場合は、条間を広くして寄せる土を確保する。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋 冬 どり				播種		定植				収穫			
				保温									

1) 適地

ネギの根は、酸素を特に必要とするので、耕土が深くて排水のよい軽い土が適します。

2) 品種

ホワイトスター、ホワイトタワー、ホワイトソード、ホワイトタイガー、冬扇、下仁田、なべちゃん など

3) 作り方

【播種】種子の寿命は非常に短く、室内に放置しておくと1年でだめになります。必ず新しい種子を利用するようにしましょう。地床では、苗床を平らにならしたら、10cm 間隔で浅く播き溝をつけ、条播きにします。種子が隠れる程度に薄く覆土して軽く鎮圧したら、灌水します。発芽するまでは土を乾かさないことがポイントで、敷きワラをするとよいでしょう。

チェーンポットに播種する場合は、専用器具でチェーンポットを広げて培土を充填し、1穴に2粒ずつになるように播きます。播種後は覆土し、ハウス内に並べて灌水します。

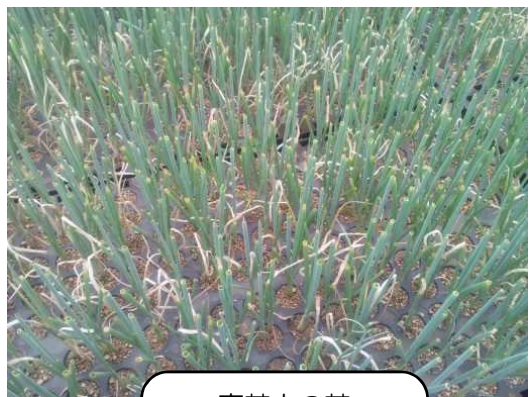
【育苗】地床育苗では、苗が生え揃ったら、まず1cm 間隔に間引き、草丈が10cm になったら3cm 間隔に間引きます。2回目の間引き後、条間に低度化成肥料を1m²当たり30g 追肥し、除草を兼ねて軽く中耕します。

チェーンポット育苗では、間引きは行わず、播種2週間後より5日おきに液肥（市販のもの300倍希釈）を施用します。灌水は、培土の表面が乾いた次の日の朝に行います。また、草丈が20cm を超える頃に、倒伏防止と健苗育成のために高さ10cm 程度になるよう剪葉します。剪葉は、定植までの間に数回行います。剪葉のたびに殺菌剤を散布して病原菌の侵入を防ぎます。

【圃場の準備】定植1か月前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、BMようりん50g を施用し、深く耕します。定植直前に、条間100~110cm となるように深さ



チェーンポット（左）と播種板（右）



育苗中の苗

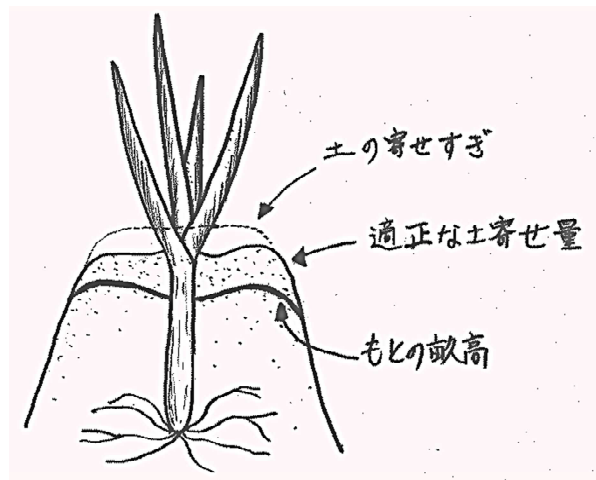
20cm ほどの溝を掘り、基肥として 1m² 当たり緩効性肥料 80g と低度化成肥料 30g を溝底に施用します。

【定植】 苗は溝の底に定植します。手植えの場合は、株間 5cm となるように 1 本ずつ立てて定植します。チェーンポットの場合は、専用の定植機を利用します。定植時、苗が傾くと収穫時のネギが曲がるので注意します。定植後は灌水し、土壌処理除草剤を圃場全面に散布します。



定植直後の圃場

【追肥と土寄せ】 定植後、40 日目頃に第 1 回目の追肥と土寄せを行います。その後は概ね 3 週間おきに追肥と土寄せを行い、収穫までに 5 回程度実施します。追肥は、ネギの株元に高度化成肥料を 1m² 当たり 20g 施用します。1 回目と 2 回目の土寄せは、定植した溝を埋め戻す程度にとどめ、3 回目以降の土寄せから株元に土を盛るようにします。土寄せのとき、緑の葉の部分まで大きく土を寄せてしまうと、軟腐病が発生し、地際から葉が倒れて生育が著しく抑制されるので、一度にたくさんの土を寄せすぎないように注意してください。



適正な土寄せ量

【収穫】 白く軟白した部分が概ね 35~40cm くらいになった頃から収穫できます。掘り起こした後、根を 2mm ほど残してカットし、葉も 15~20cm 程度に切り揃えて洗浄し、出荷します。

4) 病虫害防除

害虫では高温期にアザミウマ類が発生します。葉をカスリ状に白変させてしまうので生育が著しく抑制されます。秋口にはヨトウムシ類が発生して葉を食害します。病害は、春から秋にさび病が出やすく、また、秋にはべと病が発生します。いずれも、早めの防除に努めてください。



収穫作業